

## 心理演習

[演習] 第3学年 後期 選択 4単位

《履修上の留意事項》本演習を履修するためには、2年次開講科目である心理的アセスメントの単位を修得していることを要する。また、本演習の単位を修得していないものは4年次開講の心理実習を履修することができない。  
公認心理師国家試験を受験するためにはこの単位は必須科目である。  
履修希望者が30名を超えた場合は、一部の演習を6講目以降に開講することがある。

《担当者名》○野田 昌道、富家 直明、柳生 一白、金澤 潤一郎、本谷 亮、今井 常晶、西郷 達雄、関口 真有、上河邊 力、百々尚美、

## 【概要】

公認心理師に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げる。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得  
 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 等  
 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成  
 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ  
 (エ) 多職種連携及び地域連携  
 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

## 【学修目標】

公認心理師に必要な知識および技能を修得する。  
 支援を要するものを理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成できる。  
 支援を要する者へのチームアプローチを学ぶ。  
 多職種連携と地域連携を学ぶ。  
 公認心理師の職業倫理と法的義務を学ぶ。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	関口 真有
3・4	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	関口 真有
5・6	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	関口 真有
7・8	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	関口 真有
9・10	WISC-IV	WISC-IVについて、学生相互で実施し、レポートを作成する。	金澤 潤一郎
11・12	WISC-IV	WISC-VIについて、演習を通して実施法を習得し、結果の集計と解釈、レポートの作成を学ぶ。	金澤 潤一郎
13・14	大人の発達障害	大人の発達障がい支援について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	金澤 潤一郎
15・16	インテーク面接	インテーク面接について、ロールプレイを用いて、手続きや工夫を体験的に学ぶ。	本谷 亮
17・18	リラクゼーション法	リラクゼーション法について、ロールプレイを用いて、手続きや工夫を体験的に学ぶ。	本谷 亮
19・20	認知再構成法	認知再構成法について、ロールプレイを用いて、手続きや工夫を体験的に学ぶ。	本谷 亮
21・22	チームアプローチ	チームアプローチについて、特にチームビルディング、チーム内葛藤をワークを通して学ぶ。	本谷 亮
23・24	投映法 (描画法)	風景構成法およびスキュグル法について学び、学生相互で実施する。描画法におけるPDI(描画後面接)の意義について体験的に学ぶ。	野田 昌道
25・26	投映法 (TAT/EMP)	絵画物語投映法として、TAT(主題統覚検査)とEMPを	野田 昌道

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		体験する。事例をもとに、ケースの見立て、概念化について学ぶ。	
27・28	投映法 (ロールシャッハ・テスト)	ロールシャッハ・テストを学生相互で実施し、プロトコルを作成する。	野田 昌道
29・30	機能的アセスメント	機能的アセスメントについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	上河邊 力
31・32	機能的アセスメント	機能的アセスメントについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	上河邊 力
33・34	スクールカウンセリング	ロールプレイ、ワーク通して、スクールカウンセリングについて学ぶ。	西郷 達雄
35・36	スクールカウンセリング	ロールプレイ、ワーク通して、スクールカウンセリングについて学ぶ。	西郷 達雄
37・38	個別支援計画	ニーズの把握と個別支援計画の作成について事例検討を通して理解する。	今井 常晶
39・40	乳幼児対応技術	乳幼児とのコミュニケーション技術について、ロールプレイを通じて学ぶ。	今井 常晶
41・42	発達検査・知能検査	田中ビネー知能検査Vについて、学生相互で実施し、レポートを作成する。	今井 常晶
43・44	発達支援事例	発達支援の実際について、事例検討を行う。	今井 常晶
45・46	共感と関係作り	対人スキルを用いたロールプレイによる限界学習を行い、共感的な関係作りの技能を身につける。	柳生 一自
47・48	家族療法とジェノグラム	ロールプレイによる家族に関する聞き取りからジェノグラムを記載し、家族療法につながる関係性の読み取りを練習する。	柳生 一自
49・50	精神科診療における問診	精神科受診模擬症例を用いたロールプレイを行い、問診の練習を行う。一定時間の中で重要な情報をまとめて文章化する練習を行う。	柳生 一自
51・52	積極的傾聴技法	積極的傾聴技法の練習を行う。	冨家 直明
53・54	積極的傾聴技法	ロールプレイを通じて積極的傾聴技法を体得する。	冨家 直明
55・56	倫理的葛藤	倫理的葛藤場面における公認心理師の対応を学ぶ。	冨家 直明
57-60	客観的臨床能力試験 (OSCE)	講義内試験であるOSCEを行って、演習を通して獲得した臨床能力を評価する。	全担当者

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【アクティブ・ラーニング】

導入している

## 【評価方法】

各講義内の発表、小テスト、レポートの合計を60点、OSCEを40点、計100点で評価する。

## 【備考】

演習は15名以内を1グループとし、ローテートして行うため、講義内容の順序はグループによって異なる。詳しい日程表は別途配布する。

## 【学修の準備】

【学修の準備・事後学修】(1コマあたり合計240分)

1. 予習(約90分): テキストや参考資料を読む。生成AIを活用して講義テーマの「社会的背景」や「関連キーワード」を調査し、自分なりの興味や関心を深める。
  2. 事後学修(約150分): テキストや参考資料を読むほか、図書館を活用して広く参考文献にあたる。講義内容をAIに要約させる。AIに「理解度確認クイズ」を作成させて回答し、間違えた箇所をさらにAIと議論して解消する。臨床的なテーマについて、ディスカッションをする。TA・教員への質問をしたり意見交換をすることも推奨します。
- なお、学修活動の証明として、AIとの対話ログ(履歴)や、AIの回答を元に作成した独自の学習ノートの提出を求めたり、感想

を聞くことがあります。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP4：公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。

DP3：心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

全員、公認心理師の資格を有し、かつ、公認心理師実習演習担当教員指導者養成講習を修了している。

**【実務経験を活かした教育内容】**

心理臨床家としての経験を生かした事例を作成し、臨場感ある検討を行う。